

めざす児童生徒像

自分の考えをもち、考えを進んで表現する子

※児童生徒達成結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
(学校重点項目)	説明する力の向上	①の4段階評価のA+Bの割合が80%以上にする。	① 算数科の授業の中で事象・考え方を言葉・式・図・表などを使って説明している。						
			② 手本となるノートの掲示・交流を行っている。						
			③ パワーアップタイムで、説明する問題に取り組み、解説、解き直しを行っている。						
			④ 符津っ子テスト(説明する問題を含む)で平均点70点以上となっている。	調査結果					
			集計						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
共通重点項目	業務の改善	①③の4段階評価のA+Bの割合が90%以上にする。	① 自分の校務分掌を自覚して行い、組織的な学校運営がされている。						
			② 定時退庁日を設定し、定時退庁を行っている。						
			③ 電子会議室を活用し、印刷・配布時間や連絡時間の短縮を行っている。						
			④ 最終退庁時刻を設定し、守ろうと意識する。						
			集計						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策	
				教員	児童生徒	保護者				
小松市共通重点項目	学校研究	②③の4段階評価のA+Bの割合が95%以上にする。	① 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている。							
			② 指導主事や大学教員等の専門家が、校内研修の指導のために定期的に来校している。							
			③ 教員一人一人が授業研究を伴う校内研修を計画的に実施している。							
			集計							
	指導力の向上	授業	①の4段階評価のA+Bの割合が80%以上にする。	① 児童生徒が自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組んでいる。						
				② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。						
				③ (発表力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。						
				④ (記述力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。						
				⑤ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。						
				⑥ 児童生徒の資質・能力がどのように伸びているかを、児童生徒自身が把握できる。						
				⑦ 一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行っている。						
	集計									
	学力の定着	学力調査・教科	がんばりテスト(漢字・計算)で両方80点以上取っている児童の割合を80%以上にする。	① 学力調査の自校採点の結果を是全教職員で共有し、経年的な分析に基づいて、重点目標や具体的な取り組みが設定されている。						
				② 学力の重点目標や取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。						
				③ 学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。						
④ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。(小中連携)										
⑤ がんばりテスト(漢字・計算)で両方80点以上取っている。										
⑥ 目標を達成できなかった児童に個別支援を行っている。										
集計										
家庭学習	家庭学習強化週間中、宿題を5日間連続提出できた児童の割合を90%以上にする。		① 自分で計画を立てて勉強している。(3年以上)							
			② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている。							
			③ 宿題を家で言い、提出している。							
			集計							

平成30年度小松市立符津学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（8月提出）	取組の成果と課題（3月提出）
生徒指導	いじめ・不登校の未然防止		
	<ul style="list-style-type: none"> ・5つの気（元気・やる気・本気・勇気・根気）を全校児童に浸透させ、安心感を与える「つなぐ・生かす・認める」の働きかけを行う。集会での発表や文化行事・体育行事の機会などで自己存在感を与え、授業では自己決定の場を設けながら児童が何事にも一生懸命取り組める集団をつくる。 ・社会性、人間関係の基盤となる、心をこめたあいさつを自分からできる児童を育成するために、運営委員と6年生を中心として、年間を通して朝の挨拶運動やたてわり活動を行い、高学年の手本となる態度を示し全校に広めていく。 		
保健健康教育	けが予防に対する意識の向上と体力作り		
	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びを奨励し、けがをしにくい体をつくるために体幹トレーニングや準備体操を学校保健員会で紹介し、児童の生活に取り入れていく。 ・学校全体のけがの状況を児童に知らせ、それを活用して学級活動で指導したり、学校保健委員会で呼びかけたりして、けがの予防に対する意識を高める。 		
読書教育	読書の質の向上		
	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジブックを整備し、チャレンジブック読書月間を設けたり、本の紹介など内容に興味を持たせる企画をしたりして、良書に親しませていく。 		
道徳教育	重点項目についての児童・教師の意識の向上		
	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳ノート（ワーク）を使い、児童に自分の心の変容に気づかせたり、教師が児童一人一人を見取ったりできるようにし、道徳の評価にもつなげていく。特に重点項目については機会ごとに呼びかけを行い、学校全体で意識を高める。 		
情報教育	情報モラル教育の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育年間指導計画に則り、各学年の実態に応じて、情報モラルについての授業を各クラス1時間以上設定し、情報社会における正しい判断や望ましい態度を育てる。 		
家庭・地域との連携	開かれた学校		
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域に対して、便りやホームページで学校の教育方針や行事の様子などを積極的に発信し、信頼を深める。 ・生活科や総合学習、クラブ活動で地域の方を活用するとともに、図書ボランティアや防犯隊の方々との触れ合いを通して、児童も職員も地域の方々となつながりを持つ。 		
学校関係者評価			